

長秋詠藻に見えたる極樂六時讚について

橋 川 正

藤原俊成の家集長秋詠藻に見えて居る極樂六時讚については既に先覺の注意に上つたところであつて、即ち増訂梁塵秘抄(大正十二年版)の附録に於て佐々木信綱博士が六時讚を題して紹介して居られる。この六時讚について博士はたゞ「藤原俊成の家集長秋詠藻の下卷に、六時讚を詠じた歌十九首がある。その題目として分ちかゝけた和讚は、善導大師の六時禮讚とは全く別種のものであり、徒然草なる安樂の作つたさいふものごも内容から考へるに違つてゐて、他に所見なきものご思はれる。しかして俊成の當時世に行はれてゐたもので、梁塵秘抄のうちには似よつた句もあるから、こゝに掲げておく」といつて居られるだけである。

處が家藏の木版木六歌集中の長秋詠藻を披見するにこの六時讚の歌には詞書が附いて居て、多少これに附帶して考竅し得べきものがある。佐々木博士によつて引かれなかつた詞書さいふのは左の如くである。

故女院より極樂の六時の讚の繪にかゝれたるをその

心ごもの歌をかゝるべきに歌なき所共の猶多かるよ
みそへて奉れまおほせられしかばよみて奉りしこ
ろの歌

この詞書によつて俊成が故女院の御下命によつて奉つた歌であることが知られるが、然らばこの故女院ごは何方であらうか。よつて長秋詠藻を繰りひろげて見るに他に一二故女院の語を見出す。たごへば

故女院白河の(押)を(小路)しこうぢ殿にて彼岸の御念佛有し七日のほご人々毎日會せんにて歌よみし中に羈中霞さいふころを

さいふ詞書のあるものや(この時の關路落花、文をたがふる戀ご題する歌も載せられて居る)

故女院霜月の廿三日かくれさせ給て後御遺誠(師)にて御舍利をば高野の御山になんおさめ奉りしを(是)はすの四日にや彼御山につかせ給ひし日霧のいみじくふりし朝に侍従大納言成通入道けふ御山につかせ給ふらんこごなご消息ありし返事の次につかはしける

こ前置して「をくれるておもひやるこそかなしけれ
高野の山のけふのみゆきを」こいふ一首が見える。私
の據つた本には前條の詞書の故女院こいふ肩に美福門
こいふ三字がある。これを手懸りこして美福門院につ
いて一通り調べなければならぬ必要が起つて来る。

美福門院は女院小傳や女院記に記されてゐるやうに
大いに鳥羽法皇の寵を蒙つた方で、保元元年六月十二
日、御年四十の時鳥羽離宮で出家し給ひ法名を直性空
(一に眞性定こも、眞淨空こもある)と申され、二條天
皇の永曆元年十二月二十三日、四十四歳を以て崩ぜら
れて居る。その當時の記録として藤原忠親の日記山槐
記によるこ、永曆元年十一月二十三日の條に、
美福門院已令崩給云々、日來御重惱也(中略)已剋許
崩御云々。

その翌應保元年の十一月二十二日の條には

今日美福門院周忌御法事、於押小路被行云々。

こあつて、御一周忌の前日(今日一般世俗に於ける
命日の逮夜法要と同様に)に當つて御法要を營まれて
居るから、その崩御の月日については疑を挿む餘地は
もこよりのない。そればかりでなく崩御の年の十二月六
日の條には

宮内卿師綱朝臣語曰、美福門院御骨奉渡高野御山、

長秋詠藻に見えたる極樂六時讚について

依御遺言也、而鳥羽東殿故女院令起立御塔二基御、
一基被納故院御骨、今一基此女院御料也、然而可置
高野之由有御意趣云々(中略)仍去二日遂奉渡高野了
云々。

こ記載されて居る。山槐記のこれらの記事と前引の
詠藻の詞書と比べあはせて、故女院が美福門院に御す
こはこれ亦一點の疑もないこころである。彼此對照
して女院の御遺言により御骨は十二月二日に京都を出
で、翌々四日霧深い日に高野の山に着き給ふたこころが
知られる。

特に後鳥羽天皇の恩寵を蒙つた俊成が美福門院に選
ばれて極樂の六時讚の繪に歌を奉るべき榮譽を擔ふこ
こ、なつたのであるが、讚の繪が如何なるものであつ
たかはもこより憶測を許さぬ。けれどもそれが女院の
御起居遊ばされた白河押小路殿に在つたこは、前掲
の文献によつて略想像するに難くなく、強ひて推測を
試みるならば、時代は少し前後するけれども、宇治の
平等院鳳凰堂に於て見るが如き扉畫壁畫等なごではな
かつたであらうか。鳳凰堂の扉には菩薩天人山水等を
描き、四方の壁に淨土曼荼羅九品淨土等を描いた。畫題
はそれこもこより異なるけれども、押小路殿の阿彌陀如
來を本尊とした持佛堂の扉こか壁に描かれた晝夜六時

の讚の繪であつたのではなからうか。それは何れにしてもこの繪なり歌なりが美福門院の崩御し給ふた永曆元年以前の製作に係るこゝだけは確實である。

次に煩しいが六時讚の歌を引載して論を進めて行くことにしよう。

晨朝

朝に定より出る程、鬚に天の樂を聞。

ほのかなる空のあなたの笛の音もきけば佛の御聲なりけり

黄金瑠璃の庭に出て、人々にも花を採。

朝まだき露けき玉を折程は玉しく庭に玉ぞちりける

次に被加を蒙て、十方諸佛供養せん、虚空界を飛

過て、歡喜の國をさしてゆかむ。

手折つる花の露だにまだひぬに雲の幾重を過てきぬらん

彼に至ては、霞の地を歩て進行ば、香像白香像此等の大士に値遇す。

春のくる方をさしつるしるしにやこちふく風に花のちるらん

日中時

他方界より遠ては、次に飲食經行す。

杳なる佛の御國めぐりてもミきの程にぞ立歸りける

飲食畢^{テニハ}、座より起て經行せん、七重寶樹の風には、一實想の理を調へ、八功德池の浪には、無生感の義を唱ふ。

かけ清き七へのうへ木うつりきてるりのミほそも花かごぞみる

おり立て世をすぐせみや池水のあさふかさも心なるらん

或は宮殿樓閣に、のほりて他方界をみん。

くもりなき玉のうてなにのほりてぞ杳なるよのこもみえける

日没時

金色世界の文殊師利、菩薩にも來至す。

たらちめのきますけしきに此國も更に光はまさるなりけり。

或國界悉く、白銀光さかりにて、普賢大士來至す。

白妙に月か雪かこみえつるは西をさしける光なりけり

或國界悉く、無數大雲遍滿す、聞ば地藏大薩埵、聲聞出家の形きて、今又爰に來至す。

夕ぐれの哀立そふ雲間より家を出たる姿をぞみる

毗舍離城に住せりし、維摩居士來至す。

いにしへはしづけきむろにゆかたてて住し人にもあ

ひみつるかな

時に大衆法を聞て、彌歡喜瞻仰せん、即時に自然に無數妙花散亂す。

いろ／＼に空より花ごちりまがふこれをや法の雨ご言らん

今ぞこれいる日をも思ひこしみだの御國の夕暮の空

初夜時

見佛聞法事畢て、本の坊に歸るべし、或は金の花の中、金色淨土の如也、或は瑠璃の閣の上、淨瑠璃淨土のごこくなり。

歸りくる玉のうてなも花のうちも光はおなじ住家なりけり

半夜

夜の境靜にて、漸く中夜に至程、三五の人々共に出て、金繩界道歩つゝ、衆賢國土の境界の、寂靜安樂なるをみ、光も聲も靜にて、晝の界に異ならず。

ふかきよの光もこゑも靜にて月のみかほをさやかにぞみる

後夜

曉到て浪の聲、金のきゞによするほゞ、欲曙する

長秋詠藻に見えたる橋樂六時讚について

風の音、玉の簷をすぐるあひた多(衍カ)。

いにしへのおのへのかねに似たるかなきしうつ浪の曉のこゑ

明方は池のはちすにひらくれば玉の簷に風かほるなり

見佛聞法縁なくは、此地を踏者難有。

ほゞけをみ法を聞べき身ならずはかゝる汀をいかでふまゝし

徒然草の中に「六時禮讚は、法然上人の弟子安樂といひける僧、經文を集めて作りてつごめにしけり。その後太秦の善觀房といふ僧、ふしはかせを定めて聲明になせり。一念の念佛の最初なり。後嵯峨院の御代よりは生まれり。法事讚もおなじく善觀房はじめたるなり」こあるが、年代の關係からいつてもこよりこの六時讚を考へる上に參考とするこは出来ない。美福門院の崩せられた永曆元年に法然上人は未だ二十八歳で歸淨以前の修學時代であつて、全然没交渉であるこは論を俟たぬ。

而してこの六時讚なるものを善導の六時禮讚と比較して見ても大分縁遠い邊がある。然らば善導以外に支那日本を通じて六時讚の製作があつたかといふのに、全く不明に屬する。東域傳燈目錄をはじめこして書籍

目錄の上に善導以外の六時讚の名を全く見ないのである。よつて私はこの六時讚は作者は未詳であるが、平安時代の末期少くも永暦元年以前に出来たわが浄土教文學の一つであるといふ結論に達するのである。平安時代の末期に浄土教特に彌陀信仰の勃興するに共に、これに伴ふて和讃法文歌等謠ひ物の發達を見たのであるが、この六時讚も畢竟その發達途上の一鎖である。こゝを信じて疑はぬ。その點に於て長秋詠藻に引か

れて居るのは六時讚の鈔録であるけれども、平安末期の浄土教文學、更に大きくいへばわが佛教文學の研究にまつて好個の一資材としなければならぬ。

本文起草後、志田義秀氏が「心の花」七月號に「六時讚と梁塵秘抄、長秋詠藻、徒然草」と題して發表せられたことを知つた。定めし該博な考證のあることであらうから、是非參看を乞ふ。

禪學思想史上卷について

鈴木大拙

忽滑谷快天氏は夙て「達磨禪」を云ふものを鼓吹して居られた。六祖滅後の禪は棒兩喝雷を幽言峻句が盛んになつて、醇厚の禪風は是から破壊せられたを云ふのが氏の主張である。「禪學思想史」の著述も此主張から出来たと著者は明白して居る。禪學の史實に暗い禪の弊を錯り會するから、支那や印度における禪の起原を釋ね、その衰亡の由來を述べるのこゝである。それ故本書の出来上りは此考を以て見るべきである。上

巻だけしか出ないが、それでも七百頁以上ある。歴然たるものだ。

色んな細かい事を調べて書いてある、苦心の作たるは疑を容れぬ。文章は漢文そのまゝで見事だ。併し予をして禪學史を編せしめたなら著者が大分違つたものを作る。著者は著者の意見で書いたもので、その方面から見たなら、これなごは上乘の作であらう。併し予の遺憾に思ふのは、文字と形式の痕のみについて居て、